

パーキンソン病治療剤一覧

主なパーキンソン病治療剤の製剤写真およびPTP包装（一部ヒートシール）

監修 北里大学名誉教授 古和 久幸

ドパミン受容体刺激薬

非麦角系ドバミンアゴニスト

ビ・シフロール(プラミベキソール塩酸塩水和物)



【日本ベーリングーイングルハイム】



【日本ベーリングーイングルハイム】

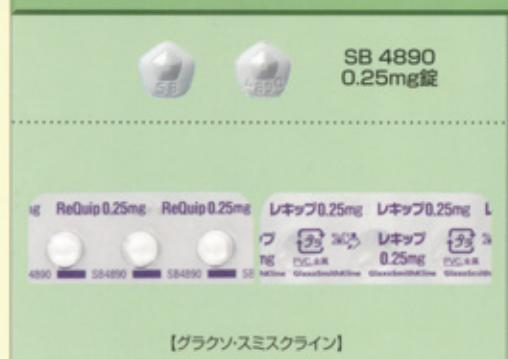
ドミニ(タリベキソール塩酸塩)



【日本ベーリングーイングルハイム】

非麦角系ドバミンアゴニスト

レキップ(ロビニロール塩酸塩)



【グラクソ・スミスクライン】



【グラクソ・スミスクライン】



【グラクソ・スミスクライン】

麦角系ドバミンアゴニスト

パーロデル(メシル酸プロモクリプチン)



【ノバルティス ファーマ】



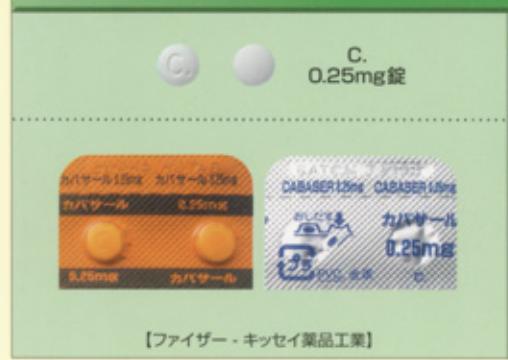
【日本イーライリリー】



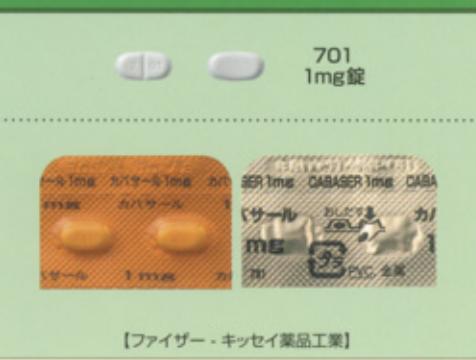
【日本イーライリリー】

麦角系ドバミンアゴニスト

カバサール(カベルゴリン)



【ファイザー・キッセイ薬品工業】



【ファイザー・キッセイ薬品工業】

パーキンソン病治療剤一覧

主なパーキンソン病治療剤の製剤写真およびPTP包装(一部ヒートシール)

レボドバおよびDCIの配合剤

レボドバ単剤



その他の補助薬

ドバミン放出促進薬



ノルアドレナリン補充薬



レボドバとDCIの配合剤



ノルアドレナリン補充薬



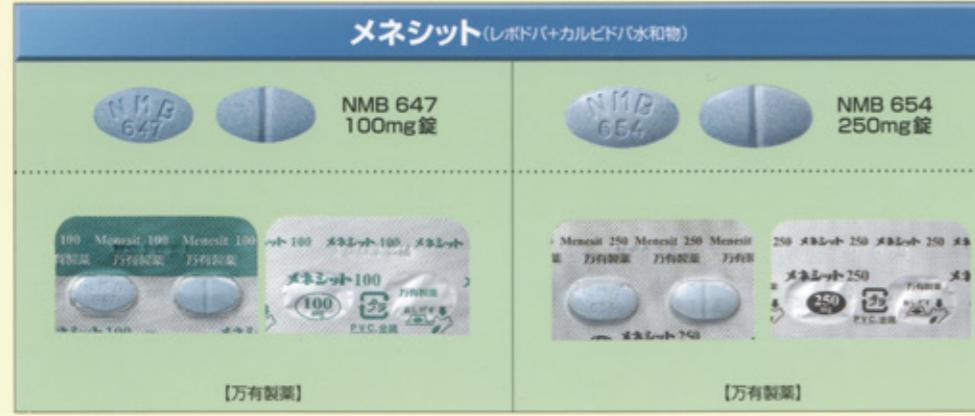
レボドバとDCIの配合剤



抗コリン薬



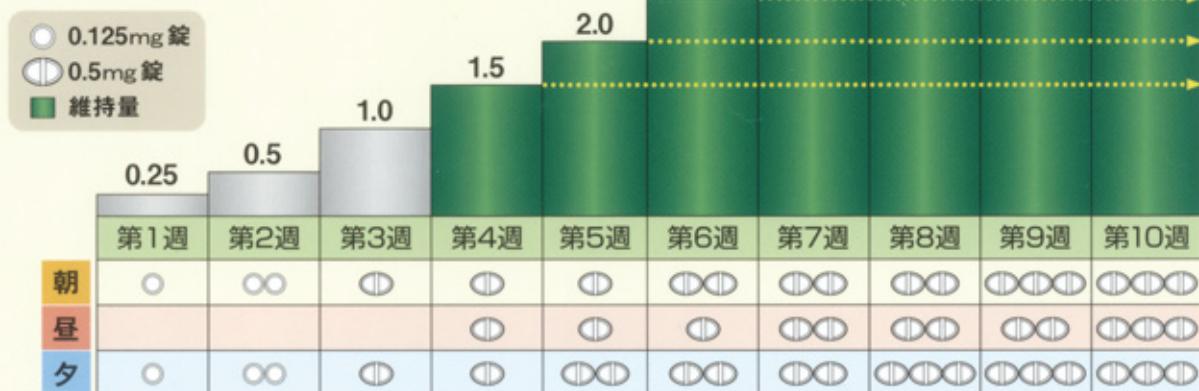
レボドバとDCIの配合剤



ビ・シフロール[®]錠の漸増投与法

パーキンソン病では患者さんによって薬に対する至適用量、反応性が異なるため、有効性と安全性を確認しながら患者さんごとに適した維持量を求める必要があります。

特に、ドーピン受容体刺激薬については、投与開始初期に悪心・嘔吐等の消化器症状があらわれることが多いため、低用量から投与を開始し、有効性と安全性を確認しながら維持量まで漸増する方法が提唱されています。



【用法・用量】

通常、成人にはラミペキソール塩酸塩水和物として1日量0.25mgからはじめ、2週目に1日量を0.5mgとし、以後経過を観察しながら、1週間毎に1日量として0.5mgずつ増量し、維持量(標準1日量1.5~4.5mg)を定める。1日量がラミペキソール塩酸塩水和物として1.5mg未満の場合は2回に分割して朝夕食後に、1.5mg以上の場合は3回に分割して毎食後経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減ができるが、1日量は4.5mgを超えないこと。

<用法・用量に関する使用上の注意>

- 本剤の投与は、少量から開始し、幻覚等の精神症状、消化器症状、血圧等の観察を十分に行い、慎重に維持量(標準1日量1.5~4.5mg)まで増量すること。〔「慎重投与」、「重要な基本的注意」、「副作用」の項参照〕
- 腎機能障害患者に対する投与
本剤は主に尿中に未変化体のまま排泄される。腎機能障害患者(クレアチニクリアランスが50mL/min未満)に本剤を投与すると、腎クリアランスの低下により本剤の消失半減期が延長するため、製品添付文書を参照の上、投与回数を調節し腎機能に注意しながら慎重に漸増すること。なお、腎機能障害患者に対する最大1回量は1.5mgとする。また、透析患者あるいは非常に高度な腎機能障害患者での十分な使用経験はないので、このような患者に対しては状態を観察しながら慎重に投与すること。〔「慎重投与」、「高齢者への投与」、「薬物動態」の項参照〕

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては製品添付文書をご参照ください。

ドバミン作動性パーキンソン病治療剤



ビ・シフロール[®]錠 0.125mg 0.5mg

BI-Sifrol[®]Tablets 0.125mg・0.5mg (ラミペキソール塩酸塩水和物製剤)

劇薬、指定医薬品、処方せん医薬品^(注)
注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

薬価基準収載

◎効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては製品添付文書をご参照ください。

【警告】

前兆のない突然の睡眠及び傾眠等がみられることがあり、また突然の睡眠等により自動車事故を起こした例が報告されているので、患者に本剤の突然の睡眠及び傾眠等についてよく説明し、本剤服用中には、自動車の運転、機械の操作、高所作業等危険を伴う作業に従事させないよう注意すること。
〔「重要な基本的注意」、「副作用」の項参照〕

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- 妊娠又は妊娠している可能性のある婦人[動物(ラット)を用いた生殖発生毒性試験で、妊娠率の低下、生存胎児数の減少及び出生児体重の低下が認められている。(「妊娠、産婦、授乳婦等への投与」の項参照)]
- 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者